

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

第1章 総 則

(目 的)

第1条 この組合は、組合員が不慮の事故によつて受けることのある損失を補てんしてその農業経営の安定を図るため、農業災害補償法（昭和22年法律第185号。以下「法」という。）に基づき共済事業を行うことを目的とする。

(名 称)

第2条 この組合は、福井県農業共済組合という。

(区 域)

第3条 この組合の区域は、福井県の区域とする。

(事務所の所在地)

第4条 本所及び支所を次のところに置く。

- (1) 本所事務所
福井県鯖江市
- (2) 支所事務所
【削除】
若狭支所 福井県小浜市

(事 業)

第5条 この組合は、次に掲げる種類の事業を行うものとする。

- (1) 農作物共済
- (2) 家畜共済
- (3) 果樹共済
- (4) 畑作物共済
- (5) 園芸施設共済
- (6) 任意共済（建物共済及び農機具共済に限る。）

(事業年度)

第6条 この組合の事業年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(公告の方法)

第7条 この組合の公告は、この組合の事務所の掲示板に掲示してこれをする。

2 前項の公告の内容は、必要があるときは、書面をもつて組合員に通知又は福井新聞に掲載するものとする。

第2章 組 織

第1節 組 合 員

(組合員の資格)

第8条 この組合の組合員たる資格を有する者は、次の各号のいずれかに該当する者でこの組合の区域内に住所を有するもの（農業共済資格団体（法第15条第1項第8号の農業共済資

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

格団体をいう。以下同じ。)にあつては、その構成員のすべてがこの組合の区域内に住所を有するものとする。

- (1) 水稻又は麦の耕作の業務を営む者(水稻及び麦の耕作面積の合計が10アール以上である者に限る。)
- (2) 牛、馬又は豚につき養畜の業務を営む者
- (3) 果樹共済のうち収穫共済について共済規程に掲げる共済目的の果樹につき栽培の業務を営む者(当該果樹の収穫共済の共済目的の種類等(法第120条の6第1項第1号の収穫共済の共済目的の種類等をいう。以下同じ。)ごとの栽培面積のいずれかが5アール以上である者に限る。)
- (4) 果樹共済のうち樹体共済について共済規程に掲げる共済目的の果樹につき栽培の業務を営む者(当該果樹の樹体共済の共済目的の種類等の栽培面積のいずれかが5アール以上である者に限る。)
- (5) 畑作物共済について共済規程に掲げる共済目的の農作物につき栽培の業務を営む者(当該農作物の畑作物共済の共済目的の種類等(法第120条の12第1項第1号の畑作物共済の共済目的の種類等をいう。以下同じ。)ごとの栽培面積のいずれかが5アール以上である者に限る。)
- (6) 園芸施設共済について共済規程に掲げる共済目的の特定園芸施設を所有し又は管理する者で農業を営むもの(当該特定園芸施設の設置面積(屋根及び外壁の主要部分がガラスにより造られている特定園芸施設の設置面積にあつては、その設置面積に2を乗じて得た面積。以下同じ。)の合計が2アール以上である者に限る。)
- (7) 建物又は農機具を所有する者で農業を営むもの

(当然加入)

第9条 水稻若しくは麦の耕作の業務を営む者で前条の規定により組合員たる資格を有するものは、すべてこの組合の組合員となる。ただし、その営む第1号から第2号までに掲げる農作物ごとの当該業務の規模が、いずれも当該各号に掲げる基準に達していない者については、この限りでない。

- (1) 水稻 30アール
- (2) 麦 10アール

(任意加入)

第10条 第8条の規定により組合員たる資格を有する者は、申込みにより、この組合に加入することができる。ただし、この組合が正当な理由によりその加入を拒んだときは、この限りでない。

- 2 前項の加入の申込みは、申込書を提出してしなければならない。
- 3 第1項の規定により、この組合に加入の申込みをした者は、この組合がその者の申込みに対して承諾をした日の翌日からこの組合の組合員となる。

(新規開田地等についての特例)

第11条 昭和47年4月1日以後にその造成が完了した耕地又はその日において現に耕地である土地であつて、その日前3年間において水稻の耕作が行われたことのないもの(以下「新

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

規開田地等」という。)において行う水稻の耕作は、第8条第1号及び第9条ただし書の規定の適用については、その耕作を行う者の水稻の耕作の業務に含まれないものとする。ただし、福井県知事が、その者が当該耕地を水稻の耕作の目的に供することにつき次に掲げる事由が存するものと認めて指定した新規開田地等において行う水稻の耕作については、この限りでない。

- (1) 水稻の耕作の目的に供するため国の助成を受けて造成された新規開田地等（昭和44年3月31日以前にその造成が完了したものを除く。）において水稻の耕作を行うこととなつたこと。
- (2) 米穀の生産の転換又は休止を図るための国の施策が実施されたため水稻の耕作を行わなかつたことにより法第150条の2第1項第2号に掲げる耕地に該当することとなつた耕地において水稻の耕作を行なうこととなつたこと。
- (3) 水稻の耕作を行う耕地（新規開田地等を除く。次号において同じ。）が土地収用法（昭和26年法律第219号）第3条に規定する事業の用に供されることとなつた場合において当該耕地に代えて新規開田地等において水稻の耕作を行うこととなつたこと。
- (4) 水稻の耕作を行なう耕地が耕土の流出、土砂の流入、埋没等の災害により被害を受けたことその他やむをえない事由により耕地を水稻の耕作の目的に供さないこととなつた場合において、当該耕地に代えて新規開田地等において水稻の耕作を行うこととなつたこと。
- (5) その他前各号に掲げる事由に準ずると認められること。

(組合員の議決権及び選挙権)

第12条 組合員は、各1個の議決権及び総代の選挙権を有する。

(組合員名簿)

第13条 この組合に、次の各号に掲げる事項を記載した組合員名簿を備える。

- (1) 組合員の氏名又は名称（組合員たる法人及び農業共済資格団体の代表権を有する者の氏名を含む。）及び住所（農業共済資格団体にあつては、その代表権を有する者の住所。以下同じ。）並びに次条第1項の通知があつたときはその場所
- (2) 加入の年月日
- (3) 共済目的の種類（家畜共済にあつては法第115条第1項に規定する共済目的の種類を、園芸施設共済にあつては共済目的をいう。以下同じ。）

(組合員に対する通知又は催告)

第14条 この組合が組合員に対してする通知又は催告は、組合員名簿に記載したその者の住所に、その者が別に通知又は催告を受ける場所を通知したときは、その場所にあててするものとする。

2 前項の通知又は催告は、通常到達すべきであつた時に、到達したものとみなす。

(脱 退)

第15条 組合員は、次の事由によつて脱退する。

- (1) 組合員たる資格の喪失

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

- (2) 死亡又は解散
- 2 組合員は、前項の事由によるほか、共済関係の全部の消滅（この組合が解散した場合を除く。）によつて脱退する。ただし、第1号に掲げる組合員にあつては法第85条の4第5項の規定による解散後の清算の終了まで、第2号に掲げる組合員にあつては当該果樹共済、畑作物共済又は園芸施設共済の共済関係の成立の日から起算して1年を経過する日までは、脱退をしないものとする。
- (1) 法第85条の4第2項の規定による家畜共済、園芸施設共済又は任意共済の共済関係の消滅により共済関係の全部が消滅することとなる組合員
- (2) 果樹共済、畑作物共済又は園芸施設共済の共済関係の消滅（法第85条4第2項の規定による園芸施設共済の共済関係の消滅を除く。）により共済関係の全部が消滅することとなる組合員
- 3 組合員でこの組合との間に共済関係の存しないもの（前項ただし書の規定により脱退をしないものとされた組合員及びこの組合の解散後その精算の終了に至るまでの組合員を除く。）は、申出により脱退をすることができる。
- (きよ出金の払い戻し)
- 第16条** この組合は、組合員が脱退したときは、当該事業年度末においてその組合員が納付したきよ出金に相当する金額を払いもどすものとする。

第2節 総代会又は総会

(総代会の設置)

第17条 この組合に、総代会を設ける。

- 2 総代会は、総会に代わるものとする。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。
- (1) 総代の選挙
- (2) 解散の議決
- (3) 総代会が役員を総会において選任する旨の議決を行つた場合における当該選任
- (4) その他総代会が総会において議決することを適当と認めた場合

(総代の選挙)

第18条 総代の定数は、209人とし、附属書総代選挙規程で定めるところにより、組合員が総会又は総会外において組合員のうちから選挙するものとする。

- 2 総代は、各1個の議決権を有する。
- 3 総代には、第42条から第44条までの規定を準用する。この場合において、第43条中「役員選任規程第5条」とあるのは、「総代選挙規程第1条」と読み替えるものとする。

(理事の総代会の招集)

第19条 理事は、毎事業年度1回4月又は5月に、通常総代会を招集する。

- 2 理事は、次の各号に掲げる場合には、総代会を招集する。
- (1) 理事会が必要と認めたとき。
- (2) 総代が、総代総数の5分の1以上の同意をもつて、会議の目的たる事項及び招集の

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

理由を記載した書面を理事に提出して総代会の招集を請求したとき。

(3) 組合員が第44条第1項の規定により役員の変更を請求したとき。

3 理事は、前項第2号の請求があつたときは、その請求のあつた日から20日以内に総代会を招集しなければならない。

(監事の総代会招集)

第20条 次の各号に掲げる場合には、監事が総代会を招集する。

(1) 理事の職務を行う者がいないとき、又は前条第2項第2号若しくは第3号の請求があつた場合において理事が正当な理由がないのに総代会の招集の手続をしないとき。

(2) 監事が、財産の状況又は業務の執行について不正の点があることを発見した場合において、これを総代会に報告するため必要と認めたとき。

(総代会の議決事項)

第21条 次に掲げる事項は、総代会の議決を経なければならない。ただし、これらの事項につき第17条第2項第4号の規定により総代会が総会において議決することを適当と認めた場合は、この限りでない。

(1) 定款の変更

(2) 共済規程の変更

(3) 毎事業年度の事業計画の設定及び変更

(4) 事業報告書、財産目録、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案又は不足金処理案

(5) 借入金（一時借入金を除く。）の方法、利率及び償還方法

(6) 建物共済に係る共済事業によつて負う共済責任の法第145条第2項において準用する同条第1項の規定による全国共済農業協同組合連合会への付保の方法

(6の2) 農林漁業保険審査会の審査の申立て又は訴えの提起

(7) 役員報酬

(8) 清算人の選任

(9) 解散による財産処分の方法又は決算報告書の承認

(総代会招集の通知)

第22条 総代会の招集は、その会日から10日前までに、その会議の目的たる事項、日時及び場所を総代に通知して行なうものとする。

(議決事項の制限)

第23条 総代会では、前条の規定によりあらかじめ通知した事項に限つて議決するものとする。ただし、法令又はこの定款の規定により特別議決を要する事項を除き、緊急を要する事項及び軽微な事項については、この限りでない。

(定足数)

第24条 総代会は、総代の半数以上が出席しなければ議事を開き議決することができない。

2 前項に規定する総代の出席がないときは、理事又は監事は、20日以内に更に総代会を招集しなければならない。この場合には、前項の規定にかかわらず、議事を開き議決することができる。ただし、第27条に規定する議決についてはこの限りでない。

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

(議 長)

第25条 議長は、総代会において総代会に出席した総代の中から総代がこれを選任する。

2 議長は、総代として総代の議決に加わる権利を有しない。

(普通議決)

第26条 総代会の議事は、出席した総代の議決権の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(特別議決)

第27条 第21条第1号に掲げる事項に係る議決は、前条の規定にかかわらず、その議決権の3分の2以上の多数によるものとする。

(続行又は延期)

第28条 総代会の会日は、総代会の議決によりこれを続行し、又は延期することができる。

2 前項の規定により続行され、又は延期された総代会には、第22条の規定を適用しない。

(総代会における書面又は代理人による議決権又は選挙権の行使)

第29条 総代は、総代会において第22条の規定によりあらかじめ通知のあつた事項につき、書面又は代理人をもつて議決権又は選挙権を行うことができる。

2 前項の規定により議決権又は選挙権を行う者は、これを出席者とみなす。

3 第1項の規定により書面をもつて議決権又は選挙権を行おうとする総代は、あらかじめ通知のあつた事項につき、書面にそれぞれ賛否を記入してこれに署名又は記名押印のうえ、総代会の会日の前日までにこの組合に提出しなければならない。

4 代理人は、代理権を証する書面をこの組合に提出しなければならない。

(議決権を行使できない場合)

第30条 総代は、総代会においてこの組合と当該総代との関係について議決を行う場合においては、当該議決について議決権を有しない。

(議事録の作成)

第31条 総代会においては、会議の議事録を作り、これに議長及び議長の指名した出席者2名以上がこれに署名又は記名押印するものとする。

(総会の招集)

第32条 理事は、第17条第2項各号に掲げる場合には、総会を招集する。

2 総会には、第19条第2項及び第3項、第20条並びに第22条から前条までの規定を準用する。この場合において、第27条中「第21条第1号」とあるのは「第17条第2項第2号並びに同項第4号の規定により総会に付議されることとなつた場合における第21条第1号」と読み替えるものとする。

(書類の備置き及び閲覧)

第33条 理事は、定款、共済規程、総代会及び総会の議事録、組合員名簿並びに総代名簿を事務所に備えて置かなければならない。

2 組合員及び債権者は、前項に掲げる書類の閲覧を求めることができる。

(決算関係書類の提出、備置き及び閲覧)

第34条 理事は、通常総代会の会日から1週間前までに、事業報告書、財産目録、貸借対照

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

表、損益計算書及び剰余金処分案又は不足金処理案を監事に提出し、かつ、これらを事務所に備えて置かなければならない。

- 2 組合員及び債権者は、前項に掲げる書類の閲覧を求めることができる。
- 3 第1項に掲げる書類を通常総代会に提出するときは、監事の意見書を添付しなければならない。

(総代会・総会議事運営規則)

第35条 法令又はこの定款に定めるもののほか、総代会又は総会の議事の運営に関し必要な事項は、総代会・総会議事運営規則で定める。

- 2 前項の総代会・総会議事運営規則は、総代会又は総会において定める。

第3節 役員及び職員

(役員の数)

第36条 この組合に、次の役員を置く。

- (1) 理事 13人
- (2) 監事 3人

- 2 前項第1号の理事の定数のうち少なくとも10人は、組合員(法人及び農業共済資格団体たる組合員を除き、組合員たる法人の業務を執行する役員及び組合員たる農業共済資格団体の代表者を含む。)でなければならない。

(役員を選任)

第37条 役員は、総代が総代会において選任する。

- 2 総代会が役員を総会において選任する旨の議決を行なったときは、前項の規定にかかわらず、総会において役員を選任を行うものとする。
- 3 この定款に定めるもののほか、役員を選任に関し必要な事項は、附属書役員選任規程で定める。

(組合長理事、専務理事及び常務理事)

第38条 理事は、組合長理事及び専務理事並びに常務理事各1人を互選するものとする。

- 2 組合長理事は、この組合を代表し、その業務を総理する。
- 3 専務理事及び常務理事は、この組合の業務につき学識経験を有する者をもつて充て、常勤とする。
- 4 専務理事は、組合長理事を補佐してこの組合の業務を掌理する。
- 5 常務理事は、組合長理事及び専務理事を補佐してこの組合の業務を掌理する。
- 6 組合長理事に事故があるとき又は欠けたときは、専務理事がその職務を代理し、又はその職務を行い、組合長理事及び専務理事に事故があるとき又は欠けたときは、常務理事がその職務を代理し、又はその職務を行い、組合長理事、専務理事及び常務理事に事故があるとき又は欠けたときは、理事の互選によりその職務を代理する者又はその職務を行う者1人を定める。

(理事会)

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

第39条 この組合の事業の運営について、次に掲げる事項は、理事会においてこれを決定する。

- (1) 業務を執行するための方針に関する事項
- (2) 総代会又は総会の招集及びこれに付議すべき事項の決定
- (3) 役員を選任に関する事項
- (4) 固定資産の取得又は処分に関する事項
- (5) 参事の任免に関する基本的事項
- (6) 余裕金の運用に関する事項
- (7) 前各号に掲げる事項のほか、理事会において必要と認めた事項（第17条第2項又は第21条の規定により総会又は総代会に付議すべき事項を除く。）

第40条 理事会は、組合長理事が招集する。

- 2 理事会の議事は、理事の過半数でこれを決する。
- 3 理事会の議長は、組合長理事とする。
- 4 前各号に規定するもののほか、理事会の運営に関し必要な事項は、理事会運営規則で定める。
- 5 前項の理事会運営規則は、理事会において定める。

(監事の職務)

第41条 監事は、次の職務を行う。

- (1) この組合の財産の状況を監査すること。
- (2) 理事の業務執行の状況を監査すること。
- (3) 財産の状況又は業務の執行につき不正の点があることを発見したときは、総代会及び福井県知事に報告すること。
- (4) 前号の報告をするため必要があるときは、総代会を招集すること。
- 2 監事は、少なくとも毎事業年度2回前項第1号及び第2号の監査を行い、その結果につき総代会及び理事会に報告し、意見を述べなければならない。
- 3 前2項に規定するもののほか、監査について必要な事項は、監事監査規則で定める。
- 4 前項の監事監査規則は、監事が定め、総代会の承認を受けるものとする。

(役員任期)

第42条 役員任期は、3年とし、前任者の任期満了の日の翌日から起算する。

- 2 定数の補充又は第44条第1項の規定による改選により就任した役員任期は前項の規定にかかわらず、退任した役員残任期間とする。ただし、全員の改選により就任した役員任期については、3年とし、就任の日から起算する。
- 3 役員数が、その定数を欠くに至った場合においては、任期の満了又は辞任によつて退任した役員は、後任の役員が就任するまで、なおその職務を行う。

第43条 役員は、その任期満了前に、附属書役員選任規程第5条第2号から第4号までに掲げる者となつたときは、退任する。

(役員改選)

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

第44条 役員は、総組合員の5分の1以上の請求により、任期中でも総代会においてこれを改選することができる。

- 2 前項の規定による請求は、理事の全員又は監事の全員について、同時にこれをしなければならない。ただし、法令、法令に基づいてする行政庁の処分、定款又は共済規程の違反を理由とする改選の請求は、この限りでない。
- 3 第1項の規定による請求は、改選の理由を記載した書面をこの組合に提出してしなければならない。
- 4 前項の規定による書面の提出があつたときは、この組合は、総代会の会日から7日前までに、役員に対し、その書面を送付し、かつ、総代会において弁明する機会を与えるものとする。

(役員義務及び責任)

第45条 役員は、法令、法令に基づいてする行政庁の処分、定款、共済規程及び総代会又は総会の決議を遵守し、この組合のため忠実にその職務を遂行しなければならない。

- 2 役員がその任務を怠つたときは、その役員は、この組合に対して連帯して損害賠償の責めに任ずる。
- 3 役員がその役職を行うにつき悪意又は重大な過失があつたときは、その役員は、第三者に対し連帯して損害賠償の責めに任ずる。重要な事項につき、事業報告書、財産目録、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案若しくは不足金処理案に虚偽の記載をし、又は虚偽の登記若しくは公告をしたときも、また同様とする。

(役員兼職禁止)

第46条 理事は、監事又は職員と、監事は、理事又は職員と相兼ねてはならない。

(監事の代表権)

第47条 この組合が理事と契約をするときは、監事がこの組合を代表する。この組合と理事との訴訟についても、また同様とする。

(役員報酬)

第48条 役員には報酬を支給する。

(参事その他の職員)

第49条 この組合に参事その他の職員を置く。

- 2 参事の選任及び解任は、理事の過半数によつて決する。
- 3 職員(参事を除く。)の任免は、組合長理事が行う。
- 4 参事は、理事会の決定により、事務所において、この組合の事業に関する一切の業務を理事に代わつて行う権限を有する。
- 5 職員は、参事の指揮を受けて、この組合の事務に従事する。

(参事の解任請求)

第50条 組合員は、総組合員の10分の1以上の同意を得て、理事に対し、参事の解任を請求することができる。

- 2 前項の規定による請求は、解任の理由を記載した書面を理事に提出してしなければならない。

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

3 前項の規定による書面の提出があつたときは、理事は、当該参事の解任の可否を決するものとする。

4 理事は、前項の可否を決する日の7日前までに当該参事に対して第2項の書面を送付し、かつ、弁明する機会を与えるものとする。

(職員の給与及び退職給与金)

第51条 職員に対する給与は、職員給与規則の定めるところによる。

2 職員が退職するときは、この組合は職員退職給与規則の定めるところにより、これらの者に対し、退職給与金を支給する。

3 この組合は、前項の退職給与金に充てるため、前項の職員退職給与規則の定めるところにより、毎事業年度退職給付引当金を積み立てるものとする。

4 第1項の職員給与規則及び第2項の職員退職給与規則は、組合長理事が理事会の承認を経て定め、更に総代会の承認を受けるものとする。

第3章 財 務

(勘定区分)

第52条 この組合の会計は、次の勘定に区分して経理する。

- (1) 農作物共済に関する勘定
- (2) 家畜共済に関する勘定
- (3) 果樹共済に関する勘定
- (4) 畑作物共済に関する勘定
- (5) 園芸施設共済に関する勘定
- (6) 任意共済に関する勘定
- (7) 削除
- (8) 業務の執行に要する経理に関する勘定

(支払備金の積立)

第53条 この組合は、毎事業年度の終わりにおいて、支払備金として、次の金額から政府から受けるべき保険金及び保険料の返還金に相当する金額を差し引いて得た金額を積み立てるものとする。

- (1) 共済金の支払又は共済掛金の返還をすべき場合において、まだその金額が確定していないものがあるときは、その金額の見込額
- (2) 共済金の支払又は共済掛金の返還に関して訴訟係属中のものがあるときは、その金額

(責任準備金の積立て)

第54条 この組合は、毎事業年度の終わりにおいて、共済責任期間が翌事業年度にわたる共済について、それぞれ次の金額を責任準備金として積み立てるものとする。

- (1) 農作物共済、果樹共済又は畑作物共済に係るものについては、当該事業年度の共済掛金の合計金額から政府への支払保険料の額及び共済金の仮渡額（政府から受けた保

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

険金の仮渡額を差し引く。)を差し引いて得た金額

- (2) 家畜共済、園芸施設共済又は任意共済に係るものについては、当該事業年度の共済掛金の合計金額から、家畜共済又は園芸施設共済にあつては政府への支払保険料の額を差し引いて得た金額中、まだ経過しない責任期間に対する金額、任意共済にあつては共済掛金の額(建物共済にあつては法第145条第2項の規定により付された全国共済農業協同組合連合会の共済に係る支払共済掛金に充てられた額を差し引いて得た金額)中まだ経過しない責任期間に対する金額

- (3) 削除

- 2 前項第2号のまだ経過しない責任期間に対する金額は、当該責任期間がその始期の属する月の翌月の初日から始まったものとみなして月割によつて計算する。

- 3 削除

(きよ出金払いもどし準備金)

第54条の2 この組合は、農業災害補償法及び農林漁業信用基金法の一部を改正する法律(平成11年法律第69号)による廃止前の農業共済基金法(昭和27年法律第202号。以下「廃止前基金法」という。)第46条第1項の規定により徴収したきよ出金の額と会員が農業災害補償法及び農業共済基金法の一部を改正する法律(昭和46年法律第79号)による改正前の基金法(以下「旧基金法」という。)第47条第1項及び第2項の規定により徴収した特別きよ出金の額とを合計して得た額から会員が廃止前基金法第49条第1項から第3項までの規定により払いもどしたきよ出金に相当する金額と会員が旧基金法第49条第1項から第3項までの規定により払いもどした特別きよ出金に相当する金額とを合計して得た額を差し引いて得た額(以下「きよ出金払いもどし対象額」という。)の100分の10に相当する金額に達するまで、毎事業年度、きよ出金払いもどし対象額の100分の1に相当する金額以上の金額をきよ出金払いもどし準備金として積み立てるものとする。

(不足金てん補準備金の積立て)

第55条 この組合は、第52条第1号の勘定にあつては、共済目的の種類ごとに、次の各号に掲げる場合に該当するときは、毎事業年度の剰余金中当該各号に掲げる金額を当該勘定に係る法第101条の準備金(以下「不足金てん補準備金」という。)として積み立てるものとする。

- (1) 当該事業年度末における当該共済目的の種類に係る不足金てん補準備金の金額が付録第1の算式により算出される金額(その算出される金額が農業災害補償法施行規則(昭和22年農林省令第95号)(以下「規則」という。)第22条第1項第1号の農林水産大臣の定める金額を超える場合には、その農林水産大臣の定める金額。以下「第1次限度額」という。)未満の金額である場合

当該共済目的の種類に係る農作物剰余金配分額(第52条第1号の勘定に係る当該事業年度の剰余金の金額を、共済目的の種類ごとに、過去の収支の差額を基準として総代会の議決を経て配分して得た金額をいう。以下同じ。)の3分の2に相当する金額(その金額が第1次限度額から当該不足金てん補準備金の金額を差し引いて得た金額を超える場合には、附録第2の算式により算出される金額と第1次限度額の2倍に

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

相当する金額から当該不足金てん補準備金の金額を差し引いて得た金額とのいずれか少ない金額)

- (2) 当該事業年度末における当該共済目的の種類に係る不足金てん補準備金の金額が第1次限度額以上第1次限度額の2倍に相当する金額未満の金額である場合

当該共済目的の種類に係る農作物剰余金配分額の3分の1に相当する金額と第1次限度額の2倍に相当する金額から当該不足金てん補準備金の金額を差し引いて得た金額とのいずれか少ない金額

- 2 この組合は、第52条第2号、第5号又は第6号の勘定にあつては、当該勘定に係る毎事業年度の剰余金中その金額の2分の1に相当する金額を当該勘定に係る不足金てん補準備金として積み立てるものとする。
- 3 この組合は、第52条第3号の勘定にあつては、果樹共済保険区分ごとに、毎事業年度の剰余金中当該果樹共済保険区分に係る果樹剰余金配分額（当該勘定に係る当該事業年度の剰余金の金額を、果樹共済保険区分ごとに、過去の収支の差額を基準として総代会の議決を経て配分して得た金額をいう。以下同じ。）の2分の1に相当する金額を当該勘定に係る不足金てん補準備金として積を立てるものとする。
- 4 この組合は、第52条第4号の勘定にあつては、畑作物共済保険区分ごとに、毎事業年度の剰余金中当該畑作物共済保険区分に係る畑作物剰余金配分額（当該勘定に係る当該事業年度の剰余金の金額を、畑作物共済保険区分ごとに、過去の収支の差額を基準として総代会の議決を経て配分して得た金額をいう。以下同じ。）の2分の1に相当する金額を当該勘定に係る不足金てん補準備金として積み立てるものとする。

(不足金てん補準備金の共済金支払への充当)

- 第56条** この組合は、農作物共済について、共済目的の種類ごとに、共済金の支払に不足を生ずる場合には、当該共済目的の種類に係る不足金てん補準備金をその支払に充てるものとする。

- 2 この組合は、園芸施設共済について、共済金の支払に不足を生ずる場合には、不足金てん補準備金の金額をその支払に充てるものとする。
- 3 この組合は、果樹共済について、果樹共済保険区分ごとに、共済金の支払に不足を生ずる場合には、当該果樹共済保険区分に係る不足金てん補準備金をその支払に充てるものとする。
- 4 この組合は、畑作物共済について、畑作物共済保険区分ごとに、共済金の支払に不足を生ずる場合には、当該畑作物共済保険区分に係る不足金てん補準備金をその支払に充てるものとする。

(特別積立金の積立て)

- 第57条** この組合は、第52条第1号の勘定について、共済目的の種類ごとに、毎事業年度の剰余金中当該共済目的の種類に係る農作物剰余金配分額から不足金てん補準備金として積み立てる金額を差し引いて得た金額を当該勘定に係る特別積立金として積み立てるものとする。

- 2 この組合は、第52条第2号、第5号又は第6号の勘定について、毎事業年度の剰余金から不足金てん補準備金として積み立てる金額を差し引いて得た金額を当該勘定に係る特別

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

積立金として積み立てるものとする。

- 3 この組合は、第 52 条第 3 号の勘定について、果樹共済保険区分ごとに、毎事業年度の剰余金中当該果樹共済保険区分に係る果樹剰余金配分額から不足金てん補準備金として積み立てる金額を差し引いて得た金額を当該勘定に係る特別積立金として積み立てるものとする。
- 4 この組合は、第 52 条第 4 号の勘定について、畑作物共済保険区分ごとに、毎事業年度の剰余金中当該畑作物共済保険区分に係る畑作物剰余金配分額から不足金てん補準備金として積み立てる金額を差し引いて得た金額を当該勘定に係る特別積立金として積み立てるものとする。

(特別積立金の取崩し)

- 第 58 条** この組合は、農作物共済について、共済目的の種類ごとに、共済金の支払に不足を生ずる場合であつて、当該共済目的の種類に係る不足金てん補準備金の金額をその支払に充てなお不足を生ずるときは、当該共済目的の種類に係る特別積立金を共済金の支払に充てるものとする。
- 2 この組合は、園芸施設共済について、共済金の支払に不足を生ずる場合であつて、不足金てん補準備金の金額をその支払に充てなお不足を生ずるときは、特別積立金を共済金の支払に充てるものとする。
 - 3 この組合は、果樹共済について、果樹共済保険区分ごとに、共済金の支払に不足を生ずる場合であつて、当該果樹共済保険区分に係る不足金てん補準備金の金額をその支払に充てなお不足を生ずるときは、当該果樹共済保険区分に係る特別積立金を共済金の支払に充てるものとする。
 - 4 この組合は、畑作物共済について、畑作物共済保険区分ごとに、共済金の支払に不足を生ずる場合であつて、当該畑作物共済保険区分に係る不足金てん補準備金の金額をその支払に充てなお不足を生ずるときは、当該畑作物共済保険区分に係る特別積立金を共済金の支払に充てるものとする。
 - 5 この組合は、第 52 条第 1 号から第 6 号までの勘定ごとに、毎事業年度、不足金てん補準備金の金額を不足金の補てんに充て、なお不足を生ずる場合には、特別積立金を不足金の補てんに充てることのできるものとする。
 - 6 この組合は、総代会の議決を経て、特別積立金を法第 95 条後段に規定する費用及び法第 96 条に規定する施設をするのに必要な費用の支払に充てることのできるものとする。
 - 7 この組合は、共済目的の種類別の農作物共済、果樹無事戻区分別の果樹共済、畑作物無事戻区分（規則第 23 条の 2 第 5 項に規定する畑作物無事戻区分をいう。）別の畑作物共済、園芸施設共済及び任意共済の区分ごとに、特別積立金を無事戻金の支払に充てるものとする。
 - 8 この組合は、前各項に規定する場合のほか、総代会の議決を経て、特別積立金をこの組合の行う共済事業に関し必要な費用として農林水産大臣の定める費用の支払に充てることのできるものとする。

(業務勘定の残金の繰延べ)

- 第 59 条** この組合は、第 52 条第 8 号の勘定について残金が生じたときは、翌事業年度の業務

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

の執行に要する経費に充てるため繰り延べるものとする。

(余裕金の運用)

第60条 この組合の余裕金の運用は、次の方法によるものとする。

- (1) 総代会において定めた金融機関への預貯金
 - (2) 総代会において定めた信託業務を営む銀行又は信託会社への金銭信託
 - (3) 国債証券、地方債証券その他農林水産大臣の指定する有価証券の保有
 - (4) 独立行政法人農林漁業信用基金への金銭の寄託
- 2 前項の規定による余裕金の運用は、同項各号の運用方法につき、それぞれ理事会において決定した額を限度として行うものとする。

附 則

- 1 この定款は、昭和58年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行する。
- 2 この定款の変更の施行の際現に存する建物共済の共済関係については、この定款の変更の施行の日の属する当該共済関係の共済責任期間の満了の日までは、なお従前の例による。

附 則

- 1 この定款の変更は、昭和59年4月1日から施行する。
- 2 この定款の変更の施行前に開始し、この定款の変更後になおその期間が残存している共済掛金期間に係る家畜共済に関する組合員負担共済掛金の規定については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行し、昭和60年4月1日から適用する。ただし、麦については昭和61年産のものから適用するものとし、昭和60年産以前の年産の麦については、なお改正前の定款の例による。

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行し、昭和61年4月1日から適用する。

ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- (1) 第145条の30の改正規定 昭和60年12月1日
 - (2) 第85条、第87条、第88条、第89条、第145条の9、第145条の12の改正規定 昭和61年2月1日
- 2 変更後の第58条第1項第3号及び第2項第7号、第112条、第113条、第114条第1項第2号、第115条、第118条、第125条第1項、第126条、第129条、第130条第2項、第135条第1項第4号並びに第145条の規定は、この定款の変更の施行の日以後に共済掛金期間の開始する家畜共済について適用し、同日前に共済掛金期間の開始する家畜共済については、なお従前の例による。
- 3 変更後の第145条の44の2、第145条の51の規定は、この定款の変更の施行の日以後に

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

共済責任期間の開始する園芸施設共済について適用し、同日前に共済責任期間の開始する園芸施設共済については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行し、昭和62年4月1日から適用する。
- 2 この定款の施行前に開始し、この定款変更施行後になおその期間が残存している共済掛金期間に係る家畜共済に関する組合員負担共済掛金の規定については、なお従前の例による。
- 3 変更後の第145条の46第3項の規定は、昭和62年4月1日以後に共済責任期間の開始する園芸施設共済について適用し、同日前に共済責任期間の開始する園芸施設共済については、なお変更前の第145条の46第3項の規定の例による。

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行する。

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行する。
ただし、変更後の建物共済に係る規定は、平成元年11月1日から適用する。

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行する。
- 2 変更後の農機具共済に係る規定は平成2年7月1日から適用する。
- 3 変更後の第130条第3項の規定は、平成2年4月1日以後に共済掛金期間の開始する家畜共済について適用し、同日前に共済掛金期間の開始する家畜共済については、なお従前の例による。
- 4 この定款変更の施行の際、現に存する農機具共済の共済関係については、この定款の変更の日の属する当該農機具共済の共済責任期間の満了の日までは、なお従前の例による。ただしその現に存する農機具共済の共済関係に係る農機具共済加入者の承諾を得た場合には、当該共済関係に係る共済責任期間のうちまだ経過しない期間について変更後の定款（以下「新定款」という。）の規定（第209条、第213条第5項、第222条および第227条第5項を除く。）を適用する。この場合において、新定款第200条第4項の災害共済金は、農機具損害共済にあつては、変更前の定款（以下「旧定款」という。）第212条及び第213条第1項、農機具更新共済にあつては、旧定款第225条第1項及び第226条第1項第1号の規定によつて算出される額とする。
- 5 この定款の変更の施行の際、未使用の状態を取得された農機具以外の農機具の現に存する農機具共済の共済関係については、この定款の変更の日の属する当該農機具共済の共済責任期間の満了の日までは、なお従前の例による。

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行し、平成3年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行する。

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

- 2 農作物共済に係る変更後の定款の規定は、平成6年産の水稻及び麦から適用するものとし、平成5年以前の年産の当該農作物については、なお従前の例による。
- 3 果樹共済に係る変更後の定款の規定は、平成6年2月1日以後に共済責任期間の開始する果樹共済に係る果樹から適用するものとし、同日前に共済責任期間の開始する果樹共済に係る果樹については、なお従前の例による。
- 4 畑作物共済に係る変更後の定款の規定は、平成5年11月1日以後に共済責任期間の開始する畑作物共済に係る農作物から適用するものとし、同日前に共済責任期間の開始する畑作物共済に係る当該農作物については、なお従前の例による。
- 5 園芸施設共済に係る変更後の定款の規定は、平成6年4月1日以後に共済責任期間の開始する園芸施設共済について適用し、同日前に共済責任期間の開始する園芸施設共済については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行する。
- 2 変更後の定款の規定は、平成6年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行する。
- 2 第151条及び第175条を除く変更後の定款の規定は、平成7年7月1日から適用し、第151条及び第175条に係る変更後の定款の規定は、平成7年7月31日から適用する。ただし、変更後の第191条、第193条及び第227条の3の規定は平成7年7月1日以後に共済責任期間の開始する農機具共済について適用し、同日前に共済責任期間の開始する農機具共済及び平成7年7月31日前に共済責任期間が開始する建物共済については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行する。

附 則

- 1 この定款の変更は、平成11年4月1日から適用する。
- 2 この定款の変更の施行の際現に存する建物火災共済及び建物総合共済の共済関係については、変更後の規定によるものとする。ただし、この定款の変更の施行の際現に存する建物火災共済及び建物総合共済に附されている臨時費用担保特約に係る共済関係については、この定款の変更の施行の日の属する当該共済関係の共済責任期間の満了の日までは、なお従前の例による。

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行する。
- 2 農作物共済に係る変更後の定款の規定は、平成12年産の麦から適用するものとし、平成11年以前の年産のものについては、なお従前の例による。
- 3 果樹共済に係る変更後の定款の規定は、平成13年産うめ（2類）から適用する。

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行する。
- 2 変更後の定款の規定は、平成12年4月1日から適用する。

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

3 この定款の施行の時以後最初に開始する役員の任期は、第39条第1項の規定にかかわらず平成12年5月31日までとする。

4 この定款の施行の時以後最初に開始する損害評価会委員の任期は、第48条第1項の規定にかかわらず平成12年5月31日までとする。

附 則

1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行し、平成12年4月1日から適用する。

2 変更後の第58条第1項第1号、第60条、第84条第1項第3号並びに第2項第2号及び第3号、第85条第2項、第86条第3項、第87条、第90条、第90条の2並びに第93条の規定は、水稻については平成12年産のものから、麦については平成13年産のものから適用するものとし、平成11年以前の年産の水稻及び平成12年以前の年産の麦については、なお従前の例による。

3 変更後の第58条第1項第3号、第71条第4項、第120条、第129条第5項、第130条第1項並びに第143条の規定は、平成12年4月1日以降に共済掛金期間の開始する家畜共済について適用し、同日前に共済掛金期間の開始する家畜共済については、なお従前の例による。

4 変更後の第145条の51の規定は、平成12年4月1日以後に共済責任期間の開始する園芸施設共済について適用し、同日前に共済責任期間の開始する園芸施設共済については、なお従前の例による。

5 変更後の第62条の規定は平成12年4月1日以後に納付され、又は納入される延滞金について適用する。

6 変更後の第236条の規定は、平成12年4月1日から適用し、同日前に申請のあつた場合はなお従前の例による。

7 変更後の第238条の規定は、改正法附則第3条第4項の認可により、農林漁業信用基金が農業共済基金の権利及び義務を承継した日から適用するものとし、同日前の余裕金の運用及び事務の受託についてなお従前の例による。

8 変更後の任意共済に係る規定は、平成12年7月1日から適用する。

9 変更後の第58条第1項第10号、第11号及び第200条第4項の規定は、平成12年7月1日以降に共済責任期間の開始する農機具共済から適用するものとし、同日前に共済責任期間の開始する農機具共済については、なお、従前の例による。

附 則

1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行する。

附 則

1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行し、平成14年1月9日から適用する。なお、第82条の規定は平成14年1月1日から適用する。

附 則

1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行する。

ただし、第300条第1項第4号の変更規定は、平成15年10月1日から施行する。

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

附 則

- 1 広域合併に関する区域の拡大等に係る変更は、福井県知事の認可のあった日から施行する。
- 2 広域合併に係る合併当初の役員の任期は、第42条の規定にかかわらず、平成16年3月1日から平成18年5月31日までとする。
- 3 特定組合の設立に係る変更は、農林水産大臣の認可のあった日から施行し、制度改正に伴う定款の変更は平成16年4月1日から適用する。
- 4 変更後の農作物共済に係る規定は、上記3の施行日以後に共済責任期間の開始する農作物共済の共済関係から適用し、施行日前に共済責任期間の開始する農作物共済の共済関係については、なお従前の例による。
- 5 変更後の家畜共済に係る規定は、上記3の施行日以後に共済掛金期間の開始する家畜共済の共済関係から適用し、施行日前に共済掛金期間の開始する家畜共済の共済関係については、なお従前の例による。
- 6 変更後の収穫共済に係る規定は、平成17年産の果樹に係る収穫共済の共済関係から適用し、平成16年以前の年産の果樹に係る収穫共済の共済関係については、なお従前の例による。
- 7 変更後の畑作物共済に係る規定は、平成16年産から適用し、平成15年以前の年産の農作物に係る畑作物共済の共済関係については、なお従前の例による。
- 8 変更後の園芸施設共済に係る規定は、上記3の施行日以後に共済責任期間の開始する園芸施設共済の共済関係から適用し、施行日前に共済責任期間の開始する園芸施設共済の共済関係については、なお従前の例による。
- 9 変更後の任意共済に係る規定は、上記3の施行日以後に共済責任期間の開始する任意共済の共済関係から適用し、施行日前に共済責任期間の開始する任意共済については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあった日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この定款及び定款附属書の変更は、福井県知事の認可のあった日から施行する。
- 2 第4条に係る変更後の定款の規定は、平成18年3月20日から適用する。
- 3 第18条第1項に係る変更後の定款の規定は、平成18年4月29日から適用する。
- 4 第36条第1項に係る変更後の定款の規定は、平成18年6月1日から適用する。
- 5 この定款の施行の時以後最初に開始する総代の任期は、第18条第3項の規定にかかわらず平成21年3月31日までとする。

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあった日から施行し、平成18年6月1日から適用する。

附 則

- 1 この定款の変更は、平成24年4月1日から施行する。

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

附 則

- 1 この定款の変更は、福井県知事の認可のあつた日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

第1章 定款 福井県農業共済組合定款

付録第1〔第55条関係〕

$$3S(q1 - P1)$$

Sは、当該事業年度にその共済責任期間が開始する共済目的の種類（以下「対象農作物」という。）に係る総共済金額

q1は、対象農作物に係る農作物通常標準被害率

P1は、対象農作物に係る農作物通常共済掛金標準率

付録第2〔第55条関係〕

$$\frac{1}{2}(L_1 - F_1) + \frac{1}{3}Su$$

L₁は、当該事業年度の当該共済目的の種類に係る第1次限度額

F₁は、当該事業年度末における当該共済目的の種類に係る不足金てん補準備金の金額

Suは、当該事業年度の当該共済目的の種類に係る農作物剰余金配分額